

意見提出フォームから頂いたご意見（令和８年７月）

NO	学校区	ご意見
1	陶	スクールバスの入札が６月にありました。 さて、スクールバス運行事業者があおい交通に決まったのは６月１日。私の息子が通う陶小学校で６月１４日に開催された保護者説明会では運行事業者の発表はなかったです。私は６月２９日に開催された一般も参加可能な説明会でそのことを行政に指摘しました。さらに運行事業者が決まったならその運行事業者の過去の事故歴、行政処分歴をテトルで配信し、保護者から安全性について合意を求めるべきと。そしてまだ正式にあおい交通が運行事業者という通知はないです。 新学校のスクールバスの運行事業者が繰り返し違反を犯している。子どもたちにルールを守れと言っている大人達がルールを守らないことを容認しているのか、点呼記録簿の改ざんは見方を変えれば通知表、テストの点数の改ざんと同じこと。子どもたちにテストでは不正を注意する教育を行っているのにスクールバス運行事業者の不正を容認している。それで果たして正しい教育ができるのか。再編に伴う多様性に順応って物事(不正など)にも順応することってことか。これを保護者説明会で行政に問えば良かったと後悔しています。 参考までにスクールバス入札結果は以下の通りです(入札情報はホームページ、事故、違反歴は国土交通省ホームページ、小牧市義会議事録、行政処分はあおい交通ホームページより引用)。 姫観光(過去５年間重大事故歴、違反歴なし)→３億５千万円 ゼットスタッフ(過去５年間重大事故歴、違反歴なし)→３億１千万円 あおい交通→(あおい交通が運行する小牧巡回バスの過去５年間人身事故５件物損事故１５件、記録簿改ざんなどの行政処分３件)→１億１千万円 市の上限価格は２億円でした。私は保護者説明会で過去のあおい交通の事故件数、行政違反件数を紹介し、「行政は金額だけ見て安全に対する評価は入札基準に入っていない。なぜ、違反歴のない運行事業者ではなく、事故、違反歴の多い運行事業者を選んだのか。金額重視なのか」質問しましたが「適正な入札」との返答でした。 私は６月に行政に対してスクールバス入札についての入札事業者の過去の事故歴や違反歴の情報開示請求をしたところ、資料ナシのため未開示でした。昨今はスクールバスに関する事故が多いです。「安全」に対する評価は重要です。そして、私たちは子供の命を預けるバス会社がどれだけ安全か知る権利があります。入札に対しての各事業者の価格、過去の事故歴、違反歴を私たちは保護者になぜ通知しないのですか？それで「合意形成」が成り立つと思っているのですか。もう少し「安全」についてしっかり取り組んでください。

2	大城（光ヶ丘中）	このたび、市内において登校中の児童が横断歩道を歩行中、自動車にはねられ、尊い命を失うという大変痛ましい事故が発生しました。未来ある子どもの命が突然奪われたことに深い悲しみを覚えます。 今回の事故は、一人のドライバーによる交通事故という側面だけでなく、子どもたちが毎日利用する通学路の安全対策や危険箇所への対応について、改めて市全体で真剣に考えなければならない課題を突きつけています。 学校が再編されれば、多くの児童生徒はこれまで以上に長い距離を徒歩で通学することになります。通学時間・通学距離が延びれば、それだけ交通事故に遭遇する危険性は高まり、猛暑が続く近年では熱中症のリスクも増大します。実際に熱中症によって児童・生徒が亡くなる痛ましい事例も発生しています。また、体調不良や急病、転倒による負傷などは、近くに大人の目があれば早期に発見し、迅速な救護につなげることができます。 さらに、学校再編の対象地域では過去に殺人事件や下校中の児童を狙った誘拐事件も発生しており、防犯上の観点からも十分な安全対策が求められます。子どもたちが安心して登下校できる環境を整えることは、教育行政の最も重要な責務の一つです。 しかし、現在の小牧市の登下校時の見守りは、地域住民や交通安全ボランティアの善意に依存しているのが現状です。日頃から子どもたちを見守ってくださっているボランティアの皆様には心から感謝していますが、本来、子どもの命と安全を守る責任は行政が主体となって担うべきものであり、善意だけに依存した体制には限界があります。 近隣自治体では、有給の交通指導員を配置し、継続的な安全確保に取り組んでいます。一方で、小牧市は県内でも比較的財政力に恵まれた自治体であるにもかかわらず、同様の体制が十分に整備されているとは言えません。他市では実施されている施策を、本市が実施しない理由について、市民に対して丁寧な説明が必要ではないでしょうか。 交通指導員の役割は、交通事故の防止だけではなく、登下校中の熱中症や急病、体調不良、不審者事案など、さまざまな緊急事態に対応し、子どもの命を守る重要な役割を担います。学校再編によって通学距離や通学時間が延びるのであれば、それに見合った安全対策を講じることは行政の責任であり、有給の交通指導員を配置することも、その有効な手段の一つであると考えます。 また、今回の事故に関連し、公職者が報道機関の取材に対して「普段は交通安全全員が緑の服を着て立ってくれていたんで安心してたんですけどね。」との趣旨の発言をされていました。 しかし、小牧市には「交通安全員」という職種は私が知る限り存在せず、恐らく緑色のベストを着用して活動されている交通安全ボランティアの方々を指しているものと思われます。このような表現は、「その方が立っていれば事故は防げたのではないか」と受け取られる可能性があり、事故とは何の責任もないボランティアの方々にまで、自責の念を抱かせかねません。もし自分がご遺族の立場であれば、このような発言をどのような思いで受け止めるだろうかと考えずにはられません。
---	----------	---

		さらに、同じ公職者からは「交通量が多く危ない場所だとわかっていた」という趣旨の発言もありました。もし以前から危険性を認識していたのであれば、その危険を改善するためにどのような対策を講じてきたのかが問われます。危険性を把握しながら十分な安全対策が講じられていなかったのであれば、その点についても真摯な検証が必要です。 もちろん、今回の事故の直接的な責任は加害車両の運転者にあります。しかし、行政には危険箇所を把握し、事故を未然に防ぐための環境を整備する重大な責任があります。子どもの命を地域ボランティアの善意だけに委ねるのではなく、行政自らが責任を持って安全対策を講じる体制へ転換することが求められます。 今回の悲しい事故を二度と繰り返さないためにも、学校再編に伴って通学距離が延びる地域への有給交通指導員の配置をはじめ、危険箇所の改善、熱中症対策、防犯対策を含めた総合的な登下校安全対策を早急に進めていただく必要があります。 子どもたちの命は何よりも重く、一度失われれば二度と戻ることはありません。この事故を風化させることなく、「小牧市の安全対策は変わった」と言われるような実効性ある施策を講じられることを切に願い、強く要望いたします。
3	陶	7月21日、篠岡地区の学校再編に関する保護者等説明会での意見や教育委員会の見解がホームページ上で公開されました。その中で大城小学校、東部市民センターでの説明会ではスクールバス受託者のあおい交通株式会社についての意見が保護者から出されました。共に運行管理に対する言及で教育委員会はチェック体制を構築していくとの回答でした。 さて、私は7月21日にあおい交通株式会社が運行するピーチバス(大城6時32発)に乗車しました。その車両は本来、東田中交差点を西進するべきところを左折、南進しました。運転士は道を間違えたことに気付き、Uターンしました。今回の事案で、交差点などを使い、正規ルートに戻るのか、Uターンして戻る判断をしたのが運転士か事業者かわからないですがこのような事案に対する対処方法は運行事業者として疑いますし、このような誤認がスクールバスで発生した際、受注主の教育委員会はどのようなチェック機能を構築するのか具体的に示していただきますようお願いします。実際に子ども達が利用をする運行事業者が交通ルールを守っていなければ、私たち大人はどのようにして子どもたちに交通ルールを守らせればいいですか？篠岡地区の学校再編としてスクールバスに運行管理業務委託する行政、教育委員会としてのスクールバス利用者説明会が開催される前に指針を示して下さい。

4	篠岡	学校再編後の通学についてです。 我が家は道路一本の差でバスエリアから外れてしまいました。ですが、現在の登校班が集合場所のすぐそばに通学バスの停留所ができる見込みです。また通学路として指定されている道は、現在も安全面の理由から一度学校から遠ざかるルートとなっており、再編後もそれは変わらないと見込まれます。 再編後は子どもの足で歩いて 30 分かかる道のり。もしかしたら近くのバスの集合時間よりも早く家を出ることになるのではないかと懸念しております。 今回のバスエリアの検討の際に、学校から一度遠ざかる必要があるルートが存在することは把握していたのでしょうか？ 夏休みに入り、我が子は毎日児童クラブに通っています。しかし金銭的な面から私は車を所有しておらず、子どもと共に歩いて通っています。子どもの負担を考慮し、荷物は全て私の自転車のカゴに入れ、アップダウンのある道を自転車を押して一緒に歩いています。坂道の多い桃花台ではアシスト付き自転車必須ですが、3 月まで子どもを乗せていた子乗せ用自転車は単体で 25kg あり、2 人分の荷物も加わり、おそらく 35Kg 以上ある自転車を押して歩きます。それだけで滝のように汗をかき、職場に着く頃には異常な脱力感に襲われており、体力的にも精神的にも辛いと感じています。 熱中症対策として持ち歩く 1 リットルのお茶が入った保冷機能に優れた水筒や氷のうは重たいです。氷のうは帰る時には溶けています。お茶は 1 リットルを飲み干してしまい、児童クラブで足していただくこともあるようです。本来ならばもっと容量の大きい物を持たせる必要があるのは承知しておりますが、これ以上重たく大きい物を持ち歩くのは困難です。 日陰が少ないことから児童用の日傘も購入しましたが、遮熱効果のある傘は通常の傘よりも重く、体の小さな子どもがさして歩くには負担が大きいようで、歩みが遅くなってしまい、却って疲れさせてしまう結果となり使用は断念しました。 仕事後お迎えに行く 17 時頃、気温は 35 度を超えています。もちろん帰りも一緒に歩いて帰ります。帰宅後は頭痛がひどく、まともに食事の支度をする事もできません。 来年の夏休みは子どもの足で歩いて片道 30 分かかる児童クラブの利用は難しいと考えていますが、仕事を辞めて自宅で一緒に過ごしてあげられるような経済状況ではありません。 夏休み前、夏休み後も暑さは大きく変わりません。通常時は重たいランドセルや水筒を背負い、日によっては上履き（学校用と児童クラブ用で 2 足）、プールバッグや体操服、新学期にはお道具箱などやピアノも加わり、さらに雨が降れば傘をさして、重さと暑さでフラフラしながら歩く子どもたちを見送らねばなりません。大人でもこれだけの荷物を持って歩くのはしんどいです。 学校再編に関わる大人の方たちは、炎天下大荷物を持ってアップダウンのある 30 分の道のりを歩いてみましたか？子どもたちが重いランドセルや水筒を背負うことで前屈みになり、まっすぐ前を向いて歩けていない事をご存知ですか？現状でも通学班で通わず親の車で通学している子どもがいる事を把握して
---	----	--

		いますか？中には来年度以降それにより本来の通学班から高学年がいなくなる班がある事をご存知ですか？ 学校までの距離が近い子と遠い子、バスに乗れる子と乗れずに歩いて行く子、学校到着時に全員が同じ体調で平等な教育が受けられると思いますか？ 体格や体力、生まれ持ったの特性や疾患などを考慮しないのは何故ですか？ 何故個別にバスが必要かどうかのアンケートをとらないのですか？ 車がある家庭が当たり前だと思っていないですか？ ただバスに乗れば良いと思っているわけではありません。通学のためのバス会社を、それまでの事故歴や問題歴をスルーして金額だけで決めていませんか？そのバス会社に子どもを任せて本当に大丈夫だと思っていますか？ 疑問や言いたい事だらけですが、子どもを預けられる場所や時間も限られており、説明会に参加するのが困難なため、こちらに投稿させていただきました。 村中小学校児童の事故の事もあり、不安が募るばかりです。何かあった時、通学班の上の学年の子を責めるような事はできません。しかし親や子ども達の負った精神的なダメージを考えると胸が締め付けられるような思いです。 何か起きた時、全ては大人の責任です。何かあってからでは遅いのです。 現時点での学校再編は見切り発車状態であることは明らかなです。 どうか子どもたちが安全に、親が安心して通わせる事ができる環境を整えてからスタートしてください。 心からのお願いを申し上げます。
5	陶	私は6月29日に開催された保護者説明会で学校再編に伴い運行されるスクールバスの運行事業者であるあおい交通の安全性について質問しました。小牧市議会議事録、国土交通省ホームページから引用した過去の事故の件数や違反(記録記載事項不備、改ざん、指導義務違反、未報告)、違反点数などを紹介して、スクールバスの安全運行の根拠や行政としての責任について質問しました。答えは曖昧でしたが7月21日にインターネットで公開された保護者説明会の質疑議事録には私の質問は掲載されていませんでした。これは意図的に掲載されていないのですか？意図的ならあおい交通同様、質問議事録の記載事項不備や改ざんを行っていることとなります。このようなことをして正しい教育をしていることを言えるのでしょうか。適正人数、多様化のために再編を進める中、教育委員会が意図的に議事録を改ざんしていいのでしょうか。